

妊産婦における 口腔健康管理の重要性

公益社団法人日本歯科医師会
副会長 牧野 利彦

歯周病と全身の病気との関係

歯と口のケアで多くの病気のリスクを下げられる

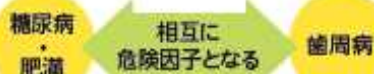
歯周病は歯を失う原因の第1位ですが、歯周病の怖さは歯を失うリスクが高いだけではありません。

ここでは、歯周病と全身の病気の関係についてみていきます。



糖尿病

歯周病になると分泌される炎症物質がインスリンの働きを妨げ血糖値が上がるといわれています。高血糖による血管のダメージで歯周病が悪化する悪循環も。



肥満

歯周病菌の毒素で肥満が進行するといわれています。脂肪の増加で分泌されるアディポサイトカインが歯周病を悪化させる悪循環も。

早産・低体重児出産

妊娠中はホルモンの変化などにより、歯周病になりやすくなります。歯周病の炎症物質により早産・低体重児出産につながることも。

歯を大切にしないことで生活習慣病のリスクも

噛むこと、ケアすることは健康にとっても大事

認知症

歯周病による動脈硬化は、脳血管性認知症の原因となりえると考えられています。また、歯周病とアルツハイマー型認知症の関連も米国の研究で示唆されています。

心疾患

歯周病による動脈硬化が心臓の血管を詰まらせ、狭心症や心筋梗塞につながるなどの報告が多く認められています。また心臓の内膜に歯周病菌が付着し炎症を起こします。

誤嚥性肺炎

歯周病菌の含まれた唾液が気道に入ることによって誤嚥性肺炎のリスクが高まります。飲み込む力が低下した高齢者に起きやすく、日本人の死因では第3位を占めます。

リウマチ

手足の関節が腫れて痛みやこわばりが生じる関節リウマチは、歯周病と同様に炎症性サイトカインとの関係性が示唆されており、歯周病を治療するとリウマチの症状が軽くなることもあります。

特に女性は妊娠・出産等、 ライフイベントに応じた注意が必要

妊娠
出産

早産・低体重児出産

歯周病になると分泌される炎症物質が子宮の収縮を誘発することによって、早産や低体重児の出産につながることもある一方、女性ホルモンが多く分泌される妊娠中は、歯周病や炎症がおきやすくなるともいわれており、相互に影響しています。



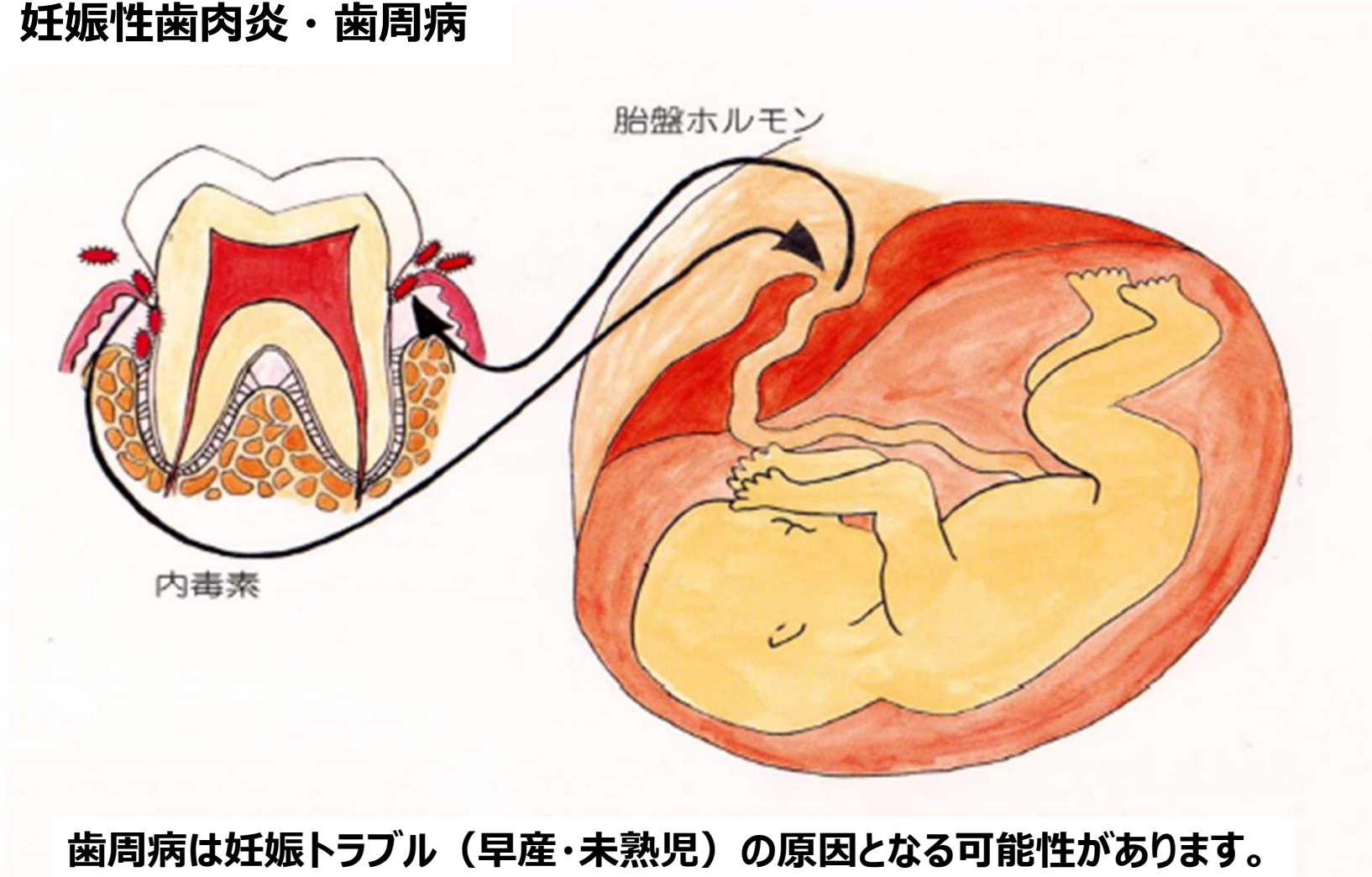
閉経後

骨粗しょう症

歯周病の炎症物質によって、歯だけでなく全身の骨の代謝に悪影響が及び、骨粗しょう症が進行してしまうケースがあります。また、骨粗しょう症の人は歯を支える歯槽骨がもろく、歯周病が進行しやすくなります。

歯周病と早産・低体重児出産

妊娠性歯肉炎・歯周病

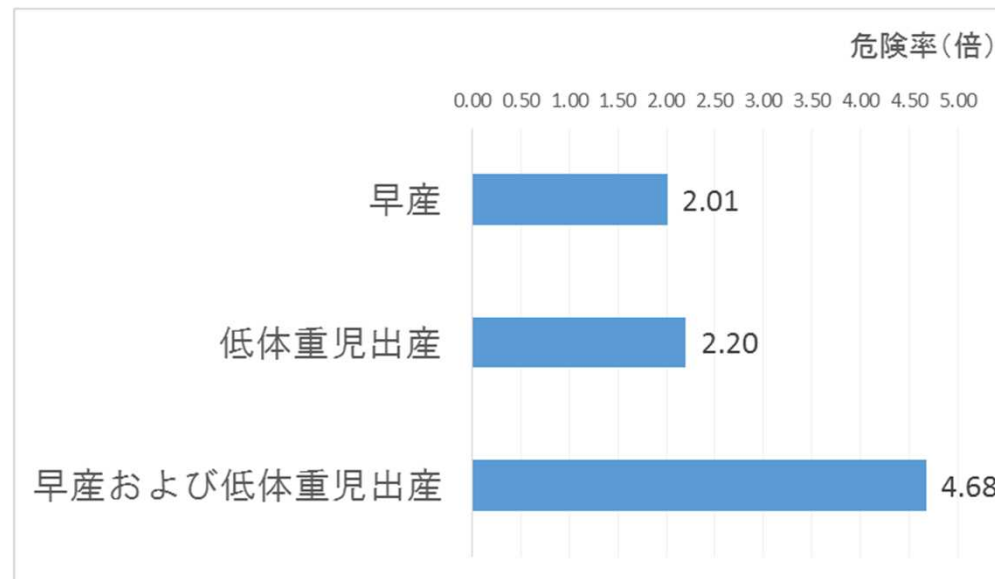


早産・低体重児出産のエビデンス

日本歯周病学会編集 歯周病と全身の健康 2015より

推奨

歯周病に罹患した妊婦では、早産、低体重児出産、早産および低体重児出産へのリスクは増加する。
(エビデンスレベル2a)



17報の症例対照研究 総数10,000名以上のメタアナライシスにより、歯周病の早産に対する危険率は2.01倍、低体重児出産に対する危険率は2.20倍、早産および低体重児出産に対する危険率は4.68倍である。

妊産婦歯科健診の重要性

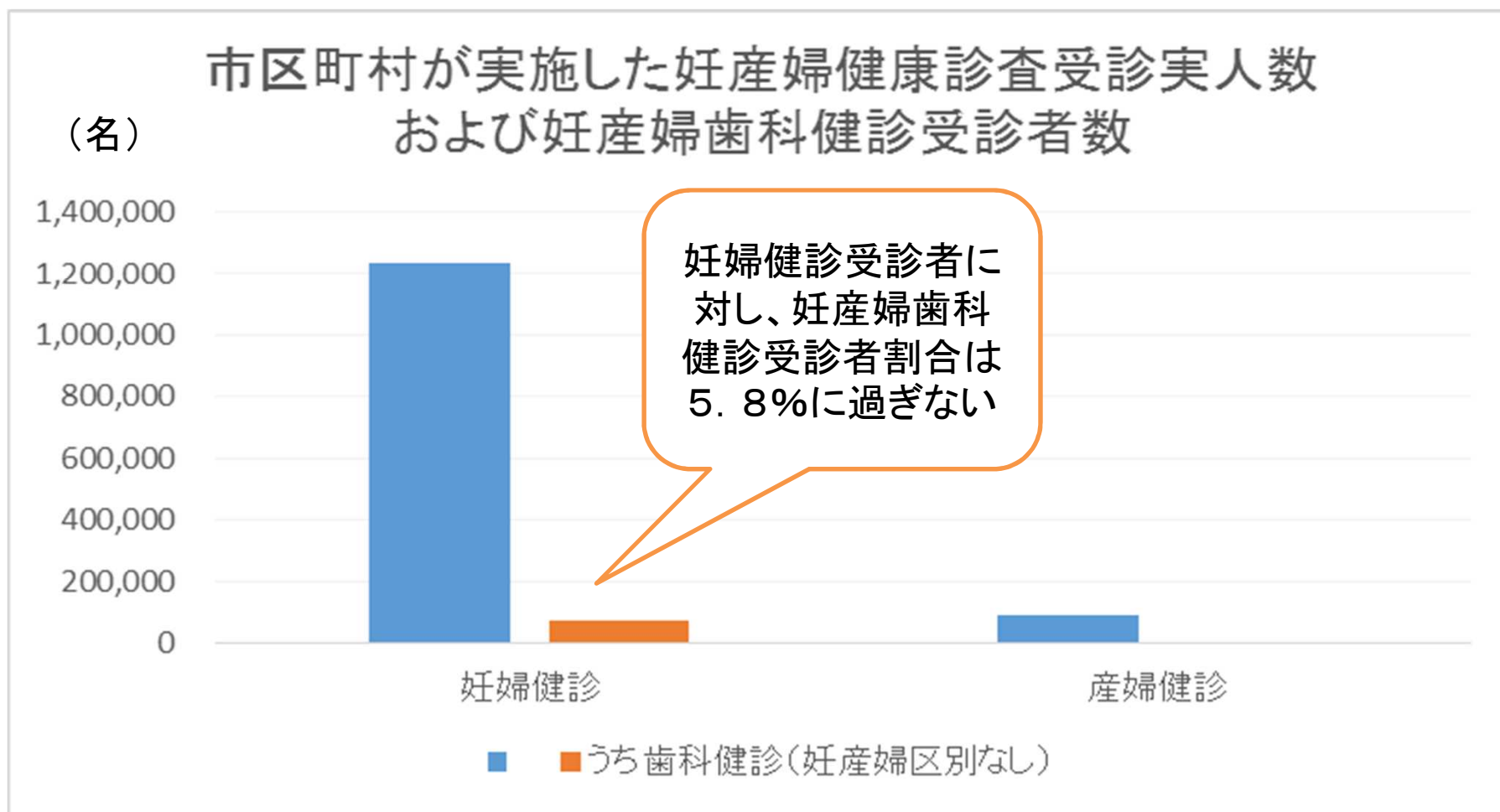
妊婦歯科健診の重要性

- 妊娠中は、女性ホルモンの急激な増加による口腔環境の変化や、「つわり」による嗜好変化や歯みがきの困難などによって、むし歯や歯周病になりやすく、妊婦さん自身が初期症状に気づきにくいことも多い。
- 「つわり」がおさまる4～5か月頃に歯科健診を受診してもらい、比較的体調の安定した妊娠中期に必要な歯科治療を行うことを勧める。



市区町村等やかかりつけ歯科医
における妊婦歯科健診の
充実が望まれる

妊産婦歯科健診の実態



地域保健・健康増進事業報告より作成

- 妊産婦の歯科健診は市町村独自の努力等で実施されており、実施は進んでいない状況である。

都道府県歯科医師会の取り組み



山梨県歯科医師会、和歌山県歯科医師会HPより

歯科治療時の配慮

妊婦さんへの歯科治療への配慮

1) 治療時の注意点

- ◆妊娠中の患者さんには母子健康手帳を提示してもらい、産婦人科医からの注意事項を共有する。
- ◆できるだけ楽な姿勢で治療を受けられるよう配慮し、体調や気分の変化に留意する。

2) 治療に際しての患者さんの心配事

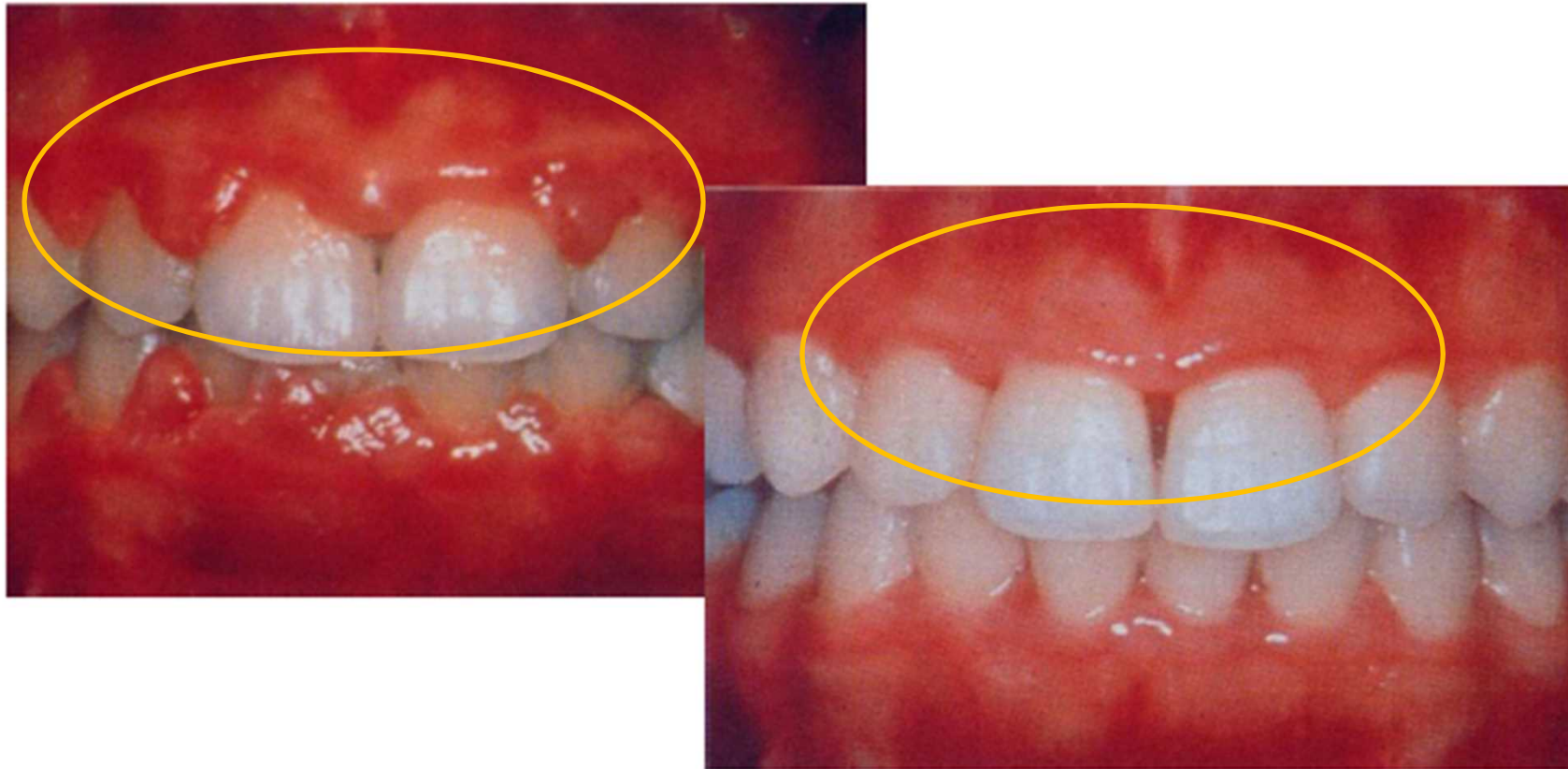
- ◆エックス線撮影の胎児への影響…防護用エプロンの着用
- ◆歯科治療時の麻酔の使用…体調や不安を考慮し、慎重に対応（産後に延ばす等）
- ◆薬物の服用…安全に使用できる薬剤を選択。
産婦人科医、薬剤師にも相談。



丁寧な説明により、安心な歯科治療を

歯科保健指導による効果

妊娠性歯肉炎へのブラッシング効果



★ 左は妊娠性歯肉炎といわれる歯周病です。写真のように出血しやすく、内毒素を出す細菌が増えています。適切な歯ブラシで右のように歯ぐきの状態がよくなります。

「知ってる？口に潜む恐怖のバイキン集団」 (奥田克爾) より引用

歯科診療における口腔健康管理の充実

機械的歯面清掃処置の見直し（平成30年度診療報酬改定）

- 自己管理が困難な患者や**妊娠中の患者に対する口腔衛生管理を推進する観点**から、これらの患者について、算定頻度の見直しを行う。



（算定要件 抜粋）

注1

歯科疾患管理料、歯科特定疾患療養管理料又は歯科疾患在宅療養管理料を算定した患者のうち、主治の歯科医師又はその指示を受けた歯科衛生士が、歯科疾患の管理を行っているものに対して機械的歯面清掃を行った場合は、2月に1回に限り算定する。ただし、初診料の注6、再診料の注4若しくは歯科訪問診療料の注6に規定する加算を算定する患者又は**妊婦については月1回に限り算定**する。

マイナス1歳から「将来の歯の健康」を考えよう！

歯胚（将来の乳歯）は胎生期早期に準備されている



図. 歯列の発育図 (Schour, Masseler, JADA, 1941)

お母さんのおなかの中から
8020（ハチマルニイマル）は始まる

歯の形成は妊娠中に始まります。
産まれてくる赤ちゃんのためにも
お母さんの**口腔健康管理**が大切です。



その先にある
笑顔を守りたい

日本歯科医師会は長年にわたり、歯科医療の重要性のエビデンスを発信してきました。

国民的理解を得つつある今、オールデンタルで、国民の期待に応える時です。

私たちは、歯科医療と口腔健康管理の充実を通じ、健康寿命の延伸を目指します。

公益社団法人 日本歯科医師会

Japan Dental Association